

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	①「満足度・充実度・幸福度 No.1」を追求し、生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ②感謝と奉仕の心を育み、学力と教養を身に付け、180通りの夢の実現をサポートできる学校 ③多文化共生を目指す地域社会と協働し、SDGsの普及に向けた取り組みを実践する学校

評価は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）で示す。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営 (管理職)	オイスカの理念のもと浜松を学びの舞台とした国際高校として日本の中学校卒業生と留学生がともに学び合う「オイスカSDGs教育」を展開し、いわゆる「令和の日本型学校教育」の中で、真の多文化共生を目指す「新未来型国際高校」を標榜すべく、理想とする教育活動を実践する。	スクールミッション達成のために日々の教育活動をどのように展開すべきか職員個々に強く意識させる。そのために各部署の責任者との密な意見交換や意識確認のために定期的にミーティング機会を設ける。職員間に意識のズレが生じないように、コミュニケーションがとりやすい環境づくりに徹する。	A	本校スクールミッションの具体的方策を年度当初に示し、その進捗状況を確認するために学校長より朝の打合せ・職員会議・校長発信文書等で適時全職員に示した。3学期には、その評価に基づき、次年度の具体的方策案を教職員に示し、意見を求めた。職員間の意識の統率を図るために、非常勤講師を含めた全教員と管理職が面談を定期的実施した。本校の特徴である留学生入学へのアプローチも成果をだせた。	A	校長自ら率先し打合せ・職員会議等で適時学校方針を示すと共に校長発信の文書を通じて職員意識を高めた。留学生の入学にあたり、校長や副校長が海外に積極的に出向き国際高校としての生徒獲得に繋がったことは大きく評価できる。
教科指導 (教務)	留学生や外国籍生徒への語学補習など、学習サポートの徹底を図る。観点別評価や新しい教務内規に沿った授業を展開し、学習面での満足度・充実度・幸福度 No.1を目指す。	基礎学力定着指導の徹底を図る。また、タブレット利用に関するマナー・ルールを明確にする。SDGs教育を高める本校独自の授業・実習・研修を展開し、生徒の学ぶ意欲や満足度向上に繋げる。	B	基礎学力定着のため教材や指導法を提示した。特徴ある夏期講座と受験対策指導を展開した。ICT運用能力と学力の向上を図る指導法を具体的に提示し課題克服に努めた。オイスカ研修（環境保全・国際理解教育）は学習成果を高め、生徒の満足度向上に繋がった。	B	ICT(タブレット教育)と併せて自筆の創造性も取り入れてもらいたい。研修を通じて異文化理解を体験し主体的な行動に繋がると期待したい。
進路指導 (進路)	自己理解や未来を思考する力を養い、明確な将来像をもたせ進路目標を設定させる。夢の実現に必要な知識・学力・技能習得のためのサポート体制を整える。	進路希望調査・面談・ガイダンス等を通して生徒一人ひとりが高い志を掲げ、一步・前進した進路選択ができるように個々の学力・適性・希望を把握し丁寧な指導を行う。	B	体験を通じた職業観育成やキャリアアップ講座の開講など、進路目標決定につながる情報を提供することができた。生徒一人一人の進路目標達成に向けて「全職員で支える進路指導体制」を構築していきたい。	B	希望進路に対して直接先生から学べ、生徒の積極性に繋がった。進学実績は評価できるが教員の負担分散体制を構築してもらいたい。
生徒指導 (生徒)	生徒・保護者が安心して健全で充実した学校生活を送れるよう努める。満足度・充実度・幸福度 No.1に向けて努力し、社会生活で必要となる社会的資質・能力が身に付くよう働きかける。	青少年を取り巻く諸問題を認知させる為、各種講習会を外部委託し開催する。教育現場となる如何なる場面においても関わる教員の声掛け・記録から情報を共有し、適切な生徒指導・早期解決を目指す。	B	ルールやマナーを守る意識を高めるためHR・学年指導を軸に各種講習会を通じ意識向上を図った。服装等の指導は繰り返し粘り強く生徒と向き合った。幼い考えの下、甘えた学校生活を送る生徒も少なくない。全職員の継続指導を通じて安心して学べる環境づくりに徹したい。	B	ルールやマナーが守られるように全職員の情報共有の徹底を図り、授業を中心に安心して学べる環境をつくるべき。併せて施設整備も大切な要素である。
部活動指導 (生徒)	所属する部活動において専門的技術向上を目指すことに留まらず、人としての成長が得られるよう指導をする(心技体)。次年度にむけて部活動の在り方を本年度中に検討をする。	各種大会に臨む部活動を全校で激励する場を設け、連帯感を強める。日常的には地道に活動に取り組めるよう生徒を励まし、結果のみならず人としての成長を見守り支援するよう働きかける。	A	運動部のみならず文化部においても対外的な活動を通じ、目覚ましい結果を残せた部活動団体や生徒が目立った。その活動を通して競技性高揚のみならず、人物としての成長を遂げられるように更に取り組みを強化していきたい。	A	運動部・文化部共に活躍が顕著であった。初のプロ野球選手も誕生し生徒と共に学校の名誉ある出来事に感銘した。在校生の頑張りに繋げてほしい。
教育相談 (教育相談)	生徒・保護者の想いや課題に寄り添う教育相談体制を構築する。科学的知見に基づく予防教育を充実させ、生徒を卒業まで導く。	生徒や保護者との相談も拡充し養護教諭やSCと連携する。生徒の幸福度を高めるよう、「感謝日記」や「最高の自分像」等の導入を図る。	B	養護教諭も増員され、SCとの連携もとりやすくなった。保護者との相談も総カウンセリング時間の1/5となった。今後、「感謝日記」等をより充実した形で運用していきたい。	B	「感謝日記」等の展開が不明であった。先駆けである予防教育について今後も積極的に展開してもらいたい。
健康管理 (生徒)	定期健康診断を正確・安全に実施し適切な措置を行う。主体的に健康意識を高められる指導を実施し、感染症拡大防止にも繋げる。	健康診断を通して、健康について深い関心を持たせる。教育相談部と連携し、さまざまな取り組みを通して心身の健康を図るよう支援していく。	B	定期健康診断は、正確・安全に実施できた。主体的な健康意識向上の支援として、各種たよりや掲示物等で啓発を行った。不適応状態の生徒には教育相談部等と連携し支援体制を確立した。	A	丁寧な分かりやすい「保健だより」を通じて、生徒と共に家族でも健康意識が向上した。
寮生指導 (寮務)	月毎に学期・年間目標を振り返り、高い意識を維持させる。寮内諸活動を通じて「生きる力」を育み人間性や社会性を身に付けさせる。	生活の基礎・基本の理解と実践において、ルール・マナーについて強く意識させる。寮生会活動では、個々の意識を高め、そのための環境整備を継続的に進めていく。	B	学期毎の目標を具体化し、分かりやすく提示してきたが時間の経過と共に意識が薄れていった。メリハリのある生活ができるよう学年毎、部活動毎など視点を変えてのミーティングも今後の課題として実施していきたい。	B	多くの時間を共に過ごす中で学年を越えた協力等貴重な体験が生まれると思う。その中で安心安全な生活空間をつくってもらいたい。
留学生指導 (国際)	授業や補習等を活用し留学生の日本語力の向上に努め、より高い日本語能力資格の取得を目指す。語学力向上のためにも校内での日本人との交流機会を増やし、コミュニケーション能力も向上させる。また、交換留学制度(インド)の充実及び短期語学研修プログラムの実現を目指す。	1学期の授業を通じて学業に取り組む姿勢について指導し、卒業までの基盤を作る。留学生と教員が意志疎通を図り留学生が、学校生活に早期に馴染めるようサポートし、生徒間交流の懸け橋とする。昨年の実績を踏まえ、交換留学制度の内容を精選し、より充実したプログラムを構築する。短期語学研修においてはバゴ研修センターの協力を得て実現に向けてあらゆる努力をする。	B	新入生の留学ビザ発行が遅れ10月から聴講生として受け入れた。11月に2名、1月に2名の留学生に日本語教育を実施した。今後は10月受け入れの留学生増が予想されるため、より学習効果を高める年間指導計画を作成したい。2年次以降は卒業後の進路を見据えて計画的な学習指導を施したい。インドとの交換留学プログラムも2回目となり内容も精選されてきた。更に交換留学プログラムを拡大していきたい。短期語学研修プログラムは評価・満足度が良好なため、参加者募集を強化し10名以上の参加を目指す。	B	留学ビザ発行の遅れについては、今後しっかり対応してもらいたい。文化の違い等高い壁があると思うが、様々な人柄や考え方や多感な時期に感じられる貴重で尊い経験になると思う。真の国際高校となるべく今後も交換留学プログラム等オイスカ独自の教育活動を展開してもらいたい。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
広報 (広報)	令和8年度の入学者数 180名の達成に向け、具体的な募集戦略を策定し、実践する。また、国際部の留学生募集計画に基づき、必要な支援や連携を行う。	オープンスクール・学校説明会・メディアを活用し、本校の魅力やPRする。また、年3回の中学校訪問を実施し、中学校の先生方に本校の生徒募集方針を理解してもらおうとともに、生徒の進路状況や教育方針についての情報交換を行う。あわせて、留学生募集に関する必要な資料を整備し、適宜提供する。	A	メディアを通じた広報活動の推進や、中学校訪問での範囲を広げ訪問を強化した。特に配付するチラシに工夫を凝らし、カリキュラム、部活動紹介、学校説明会などの情報も盛り込んだ。その結果、昨年度に比べて各学校説明会10名～20名の参加者の増加につながった。また、留学生募集においては、国際部との連携を密にし、訪問先への資料・配布物をさらに充実させた。	A	メディアに取り上げられる放映日時など保護者や生徒自身にSNSを通じて配信し広報活動に繋げてほしい。スクールカラーを表現したスクールバスも地域に良いインパクトを与えている。入学希望者も増加し良い広報活動が展開できている。
企画・研修 (企画研修)	「学びの機会の保障」を大前提に「自己実現・進路実現」に結び付く「探究学習」の充実のためのしくみづくりに取り組む。	・「オイスカ SDGs 教育」の視点に基づき、授業及び諸行事を再点検し、全体計画・年間計画を見直す。 ・特に「環境保全教育」「防災教育」を中心に、全校で探究学習の実践を重ねる。 ・探究学習を中心とする、生徒の学びの蓄積をするポートフォリオ（冊子）を作成し、進路実現につなげる。	A	「自己実現・進路実現」のためのシステム構築に努めた。「探究学習」の基本テーマに「環境保全」「防災」を取り上げ、教科指導の年間計画に組み込み、「探究学習」の進め方を各教科で確認した。毎週発行の「研修だより」では、キャリア教育を取り上げ全職員の意識を高めることができた。3年生は、具体的な進路目標実現に向け、キャリアパスポートを活用しながら自己実現に向けて取り組むことができた。	A	「研修だより」を毎週発行し全職員のキャリア教育意識を向上させた。3年生の進路指導については多角的に進められていた。今後はさらに多様な生徒一人一人の自己実現・進路実現に向けてのシステム構築に尽力いただきたい。
防災 (総務)	年2回の避難訓練を実施する他に、適宜訓練を実施する。AED講習を実施する。	従来の全校避難訓練以外に部活動中の抜き打ち訓練といった臨機応変の対応力育成に挑戦する。AED講習は、職員のみならず、新たにスポーツウェルネスコース生への実施も検討する。	B	4、9月に避難訓練を実施。迅速な安全確保の観点から集合形態を工夫した。5月には職員向けのAED講習を実施。スポーツウェルネス生への実施はできなかった。トカラ列島地震による津波警報発令の際、高台への避難を経験した。アンケートを生かし、来年度の動きに生かしたい。	B	安全第一を考え迅速な避難訓練が実施されていた。トカラ列島地震の際の津波避難を通じて、季節や警報の種類に応じた、より安全に非難する方法を研鑽してもらいたい。
事務 (事務)	School Compliance に基づいた適切な運営を行う。来校者や生徒に親切・丁寧な対応をする。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧な対応をする。	B	関係諸機関からの通達を守り、実態調査等滞りなく進めたが、県や労基署から規程等に関する指摘があり、適切に対応した。生徒及び訪問者へは常に親切・丁寧を心掛け対応できた。	B	規定等の指摘事項について改善してもらいたい。訪問・電話をした際はいつも親切丁寧に対応していただいた。
ユネスコスクール (国際交流)	ユネスコスクールとして、「ユネスコの3本柱」に沿った学校運営・学校教育・学校活動を展開する。新たに学校内外における国際交流活動の企画と運営を創出する。	・学校を「ミニワールド」と捉え、真の多文化共生を目指す教育活動を実践する。 ・ユネスコスクールの活動分野に沿った取組を行い、国際理解教育の場となるよう働きかける。 ・ワールドフェスタなどの行事を通して国際交流委員会の活動を活性化させる。 ・インドとの交換留学を成功させ国際的な相互理解を深めていく。	A	本年度6月にユネスコスクール正式加盟の許可が下りた。国際交流委員会の活動の一環であるワールドフェスタを継続実施した。委員会活動を通して学校内に国際理解、多文化共生の雰囲気づくりができていく。また、インド留学生との交流を深め、双方にとって学び深い体験ができるよう今後も働きかけていきたい。なかよし学園「世界とつながる学びプロジェクト」を本年度、取り入れ、活動した。フィードバックを行いながら、今後に繋げていきたい。	A	国際交流委員会の生徒を中心に国際理解・多文化共生の活動に取り組んでいるように思う。2年時の研修旅行では主体的にフィリピンやインドでの研修を希望する生徒も多く、生徒の国際理解への関心も定着、あるいは拡大しているように感じる。
SDGs 教育 (SDGs 教育推進)	教育目標・教育方針の実践に向けて、教職員に具体的なオイスカ SDGs 教育運営を示す。自然の恩恵に感謝し、国際・地域社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	・日常生活と SDGs の関わりを理解するために掲示物を活用し気づきを与えていく。 ・効果的なポートフォリオを活用し、全校で探求学習に取り組む。 ・地域に求められた持続可能な協働活動を実践する。	A	防災をテーマに SDGs 教育を年間指導計画に取り入れ実践した。行事の事前・事後指導や各コースの年間指導計画を作成し運営した。特色ある産官学連携で多くの地域課題に取り組み、食育や環境保全活動、国際協力活動を実践した。メディアへの出演や各種コンテストで多くの受賞を果たした。	A	オイスカ教育の柱の一つである SDGs 教育については、生徒・職員の意識が高い。多くのメディアへの出演、各種コンクールでの受賞など、その結果の表れだと感じる。
スポーツウェルネス (SW コース)	スポーツ・健康面から自らのライフスタイルを構築できる生徒の育成を目指す。大学や専門学校、企業とのタイアップ活動を通して、主体的に学べる生徒を育成する。	年次教育目標を達成させるための授業の構築を図る。提携先の静岡産業大学や常葉大学・浜松医療学院専門学校と連携を深めコース単位・部活動単位での効率的な授業運営を図る。部活動においては授業外での交流も深めていく。	A	スポーツ総合演習の中で、静岡産業大学・浜松医療学院・ベルテックス静岡とのタイアップ授業を実施。満足度の高い常葉大学とのタイアップ授業増を目指したい。来年度で3学年が揃うが、効果的な運営方法等を検討していきたい。スポーツと多角的に関わり合うことができたのはよかった。	A	スポーツと健康について積極的に学び、将来はプロ競技者や社会を明るくする人材育成に努めてもらいたい。大学との提携などオイスカ独自の教育プログラム構築を期待する。
通信制 (通信制指導部)	中学時代は不登校のため授業に参加できなかった生徒が多数いる状況で、基礎学力の定着を図り、学ぶことの楽しさや大切さを教えていく。また定期的に登校させることで基本的な生活習慣の改善を図っていく。	中学の復習を含めたレポート作成を通して基礎学力の定着を図る。学習に取り組む姿勢を教えると共に、充実感が得られる行事を含めた教育環境を構築していく。学習面だけでなくメンタル面のサポートにも重点をおく。	A	在籍生徒は31名である。不登校経験生徒も、個別指導や保護者の協力の下単位修得できた。3年生は、就職2名、四年制大学1名、専門学校2名の進路が決まった。カウンセラーや全日制教員の協力を得て生徒を導いた。全日制を有する本校の強みを活かし、個に応じた丁寧な指導をしていきたい。	A	個性豊かな多様な時代に通信制の需要は増加しているように思う。全日制の良さや通信制の良さを活かしながら前向きな気持ちで運営に尽力してもらいたい。

課題・検討事項・学校運営に関するご意見等

- ・道徳授業を実施するなど徳のある人間育成に尽力してもらいたい。
- ・学力と併せて、人と人との繋がりなど感じさせる教育を展開してもらいたい。
- ・普段の授業の様子を観るために授業参観（保護者）を希望する。併せて、入学式・卒業式後のLHRへの保護者参加を希望する。